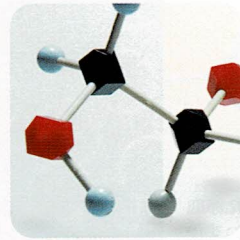
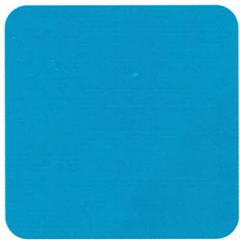


# 「水素」で *Let's* 超健康ライフ!

～ 科学も認めた注目の「マイナス水素イオン」～



# なぜいま「水素」なのか？

医療現場での活用例も豊富、

水素は、あなたの生命力を高める「切り札」です！

健康に生きるということは、ただ単に「病気をしない」ということではありません。

全身がエネルギーにあふれ、喜びや笑顔があり、仕事に興味に学業に、全力で打ち込める状態のことを言うはずですよ。

ところがいま、世の中を見渡すとどうでしょう？ 慢性的な疲労感が抜けず、元気ややる気が出ない人、何らかの持病があり、健康に不安を抱えている人が多くはありませんか？ 精神的に不安定で、うつに悩まされている人もいます。

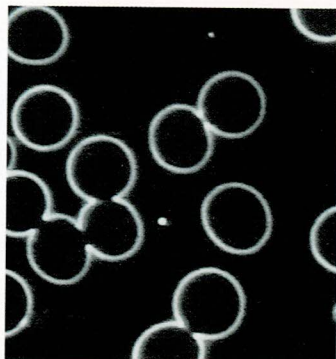
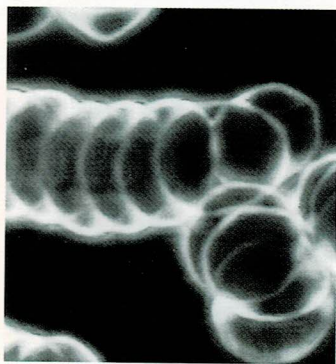
もっと元気になるために、好きなことに自由に打ち込める「超健康」な身体を手に入れたい。……そんな皆さんの願いを叶えてくれるカギは、誰もが知っているある物質の中に隠されています。そう、それが「水素」なのです。

水素は、この宇宙で最も豊富に存在している元素で、私たちの体の6割は水素原子によって構成されています。

たとえば、毎日の食事を思い出してみてください。三大栄養素である炭水化物、たんぱく質、脂質のいずれにも水素は含まれます。

食品から摂取したこれらの栄養素は、体内に消化・吸収され、細胞内のミトコンドリアという器官に運ばれると、ATP（アデノシン三リン酸）というエネルギーに変わりまします。

じつは水素もミトコンドリアと一緒に運ばれ、水素原子に電子が一つ加わった「マイナス水素イオン」(H<sup>-</sup>)に変化すると言われて



活性酸素の影響でドロドロにくっつき合っていた赤血球が、「固体マイナス水素イオン」を摂取してわずか30分後にサラサラ状態に！ このサラサラ効果はその後二時間も持続しました。

(「九段クリニック」理事長・阿部博幸博士の実験から)

います。このマイナス水素イオンがエネルギー産生に深く関わっていることがわかってきたのです。

通常、水素は水に溶けると電子を一つ失って、プラスの水素イオン ( $H^+$ ) になることが知られます。

水素イオンと言えば  $H^+$  のことであり、「マイナス水素イオン ( $H^-$ ) など」という物質は自然界に存在しない」というのが、これまでの常識でした。

しかし、水素研究の第一人者である及川胤昭理学博士は、サンゴカルシウムに吸蔵させた大量の水素原子を摂取すると、体内で水にふれて、長時間にわたってマイナス水素イオンを発生させることを突き止めました。

こうして開発されたのが「固体マイナス水素イオン」です。

物質として不安定な状態のマイナス水素イオンを固型化した食品(サプリメント)として摂取するこの画期的な方法によって、エネルギー産生能力が大幅にアップ。このため愛用者の方から「体の内側から元氣ややる氣がみなぎってきた」「疲れにくくなり、短時間の睡眠でもリフレッシュできるようになった」「体力が付き、ここ一番で踏ん張れるようになった」などの声が聞かれるようになったのです。また、マイナス水素イオンには、エネルギー産生の際に生じた活性酸素と結びつき、これを無害な水にして体の外に排出させてしまう働きもあります。

ご存じのように、活性酸素は細胞を傷つけたり、老化させたりし、糖尿病、高血圧、前立腺肥大症など、様々な病氣の原因になることで知られます。マイナス水素イオンは、活性酸素を除去する抗酸化物質としても優れた働きをしてくれるのです。

現在、医療現場でも水素の働きに着目し、「固体マイナス水素イオン」を評価する医師が増えてきています。アンチエイジング(若返り)に、健康増進に、ぜひ活用してみてください。エネルギーが充満し、身も心も軽く、視界がサッと開けるようなそんな爽快感が味わえるはずです。

科学も認めた

「マイナス  
水素イオン」

H

自然界に存在しないとさえ言われてきたマイナス水素イオンですが、じつは理工系辞典の最高峰とも言われる岩波書店の『理化学辞典』や、世界の生化学者の教科書との呼び声高い『ハーバー・生化学』にもその名が記載されています。

及川博士が「固体マイナス水素イオン」を開発し、様々な臨床試験、モニターテストを行なったことで、これらの記述の正当性が裏付けられ、証明されたと言えるのです。

# 私をびっくりさせた 「マイナス水素イオン」 毎日摂ることで、若返ったようです

マイナス水素イオンの存在を知ったのは、2006年6月、友人で(株)水素研究所の所長をしている若山利文さんと、ある会合の席上で10年ぶりくらいに再会したのがきっかけです。

フランス語に堪能で、医療機器の輸入会社の代表を長年つとめてきた若山さんが、耳慣れない「水素」の研究をしていると聞き、興味を持ったのです。

早速、彼の著書(『マイナス水素イオンと健康革命』)を読んだところ、体内のエネルギーを活性化させる水素の驚異的な健康作用とともに、「固体マイナス水素イオン」を開発した及川胤昭博士の「黙って2〜3週間、固体マイナス水素イオンを飲み続けてください。尿の出の悪さや切れの悪さが驚くほど改善されていきます」という言葉が紹介されていました。

私は、1995年から前立腺肥大に悩まされてきたこともあって、この話にはびっくりし、再度若山さんに会って詳しい話を聞きました。そして、「固体マイナス水素イオン」の粉末を1日2袋(約400mg)ほど、鳳凰堂のくま笹エキースと併用して飲み始めました。

すると、びっくりするようなことが起こりました。い

つの間にか、若山さんの本に書かれているのと同じように、前立腺の状態が良くなっていったからです。3か月後には、顔のしみがへりました。マイナス水素イオンの効果で、若返ってきたような心地よさを覚えたものです。

「固体マイナス水素イオン」は、ガンや糖尿病などに悩んでいる人にも喜ばれているようです。宇宙創造の第一の物質であるからか、個人的にはフリーエネルギーを集めてくれる効果が含まれているように感じています。

むやみに薬に頼らない、自然の理に従った生き生きとした毎日を送るために、これの活用もよいようです。



船井幸雄

(株)船井本社 代表取締役会長

船井幸雄グループ最高顧問

(株)本物研究所

(株)船井メディア

(株)船井ビジョンクリエイト

TV・マスコミでも取り上げられました



# NHK、全国紙も注目！ 科学誌「ネイチャー」にも発表された、 水素の活性作用！

マイナス水素イオンの研究はまだ始まったばかり。しかし、この5年ほどの間に「固体マイナス水素イオン」を愛用する人の数は増え、各地の医療機関を中心に研究のすそ野も徐々に広がっています。

マイナス水素イオンの研究は

上げられました。

水素の健康作用に関心が集まる一つのきっかけとなったのは、2007年5月8日、日本医科大学の太田成男教授（細胞生物学）の研究結果が、アメリカの科学誌『ネイチャー・メデ

イシン電子版』で発表されたことがあるでしょう。

水素が体内の活性酸素を効果的に取り除いてくれることをラットの実験によって論証した内容ですが、このニュースは、当日の朝日・読売・毎日新聞各紙で報道され、NHKのニュース番組「おはよう日本」でも取り

雑誌媒体では、業界最大手の健康誌『壮快』（マキノ出版）が「食べる水素」として2006年から3回にわたり特集してきたのをはじめ、'07年8月には医療・福祉の総合情報誌『JMS』でも、内藤真礼生先生（佐野厚生総合病院内科医長 ＊7ページ参照）の臨床経験がレポートされています。

マイナス水素イオン研究の特色は、医療関係者による検証がしっかりと積み重ねられている点。専門医を中心にした中間法人「水素と医療研究会」も設立され（下記参照）、'07年5月には第1回ドクターズ・シンポジウムも開催されています。信頼度の高い研究報告は、これからメディアでも、ますます注目されていくことでしょう。

マイナス水素イオン研究の特色は、医療関係者による検証がしっかりと積み重ねられている点。専門医を中心にした中間法人「水素と医療研究会」も設立され（下記参照）、'07年5月には第1回ドクターズ・シンポジウムも開催されています。信頼度の高い研究報告は、これからメディアでも、ますます注目されていくことでしょう。

## ● TOPIC ●

### 「固形マイナス水素イオン」のサポートセンター＆研究会が発足！

マイナス水素イオンの研究をさらに推し進め、様々な病気に悩む人々を積極的に支援していくため、このほど「医療アシストサービスセンター」が設立される運びになりました。

このセンターには、同じく設立された中間法人「水素と医療研究会」に所属する顧問医師団が参加。「固体マイナス水素イオン」愛用者向けの健康相談、病院での診察に対するセカンドオピニオンの役割を果たしていく予定です。



医療・福祉総合情報誌「JMS」より



人気健康誌「壮快」より

あなたも今日から「水素生活」①

アンチエイジングに欠かせない「最強の抗酸化成分」

「マイナス水素イオン」の超健康パワー!

疲れた肌を若返らせ、体力・活力を回復させるアンチエイジング医療の現場で、「マイナス水素イオン」が大きな注目を集めています。赤坂アンチエイジングクリニック院長・森吉臣先生に、「水素」と「若返り」、そして「健康」の切っても切れない関わりについてお話を伺いました。

〈赤坂アンチエイジングクリニック〉院長

森吉臣

活性酸素を取り除き、細胞の若返りをうながす  
マイナス水素イオン

私たちの体は、さまざまなストレスを受けることで、日々刻々、病気の原因となる活性酸素を発生させています。

例えば、毎日吸い込んでいる空気のなかにも、タバコの煙や車の排気ガスなど、活性酸素を過剰に生み出す有害物質が数多く含まれます。

市販のお弁当やスナック菓子、インスタント食品などの食品添加物や保存料、野菜や果物の残留農薬なども、日常的に口

にしていると体内で活性酸素が生み出されやすくなります。

こうした大量の活性酸素は、体の細胞を酸化させ、遺伝子を傷つけることで老化をうながし、がんや生活習慣病の原因になることもあるのです。

私のクリニックでは、Fraser<sup>スティー</sup>4という活性酸素の分析機器を使って、患者さんの①酸化ストレス度と②抗酸化力を測っています。①酸化力が多く、抗酸化力が不足している人が約半数にのぼっています。その中でバランスの崩れが非常に大きく、がんなどを発病しかねない状態の人が、全体の20%

も見受けられるのです。

こうした「最悪の健康状態」から脱するには、抗酸化力の高い食材を日ごろから摂り、活性酸素の害を防ぐことが大切……とりたいところですが、スーパーなどで見かける野菜や果物の多くは、ビタミンやミネラルなどの栄養分が昔に比べて大幅に減少しています。また、活性酸素を発生させる農薬や化学肥料の使いすぎで、安全とは言えません。良質なサプリメントの力を借りないと、病気をほねのける体力を保つことは難しいのが現実なのです。

そのため私は、クリニックに

訪れる患者さんに、マルチビタミン、マルチミネラルなどのサプリメントで基本の栄養素を補う指導をしたうえで、さらに元気に若返りをはかってもらうため、抗酸化作用の強いサプリメントの併用を勧めています。そこで大いに活躍しているのが、「最強の抗酸化剤」と言ってもいい、「固体マイナス水素イオン」なのです。

最悪の毒性をもつ  
ヒドロキシラジカルを  
強力に消去!

マイナス水素イオンの名前は以前から耳にしていたが、



森 吉臣 ● もり よしおみ

1972 (昭和47) 年、日本大学大学院医学研究科卒業。米カリフォルニア大学病院、日本大学板橋病院、獨協医科大学越谷病院副院長を経て、米国にてアンチエイジング医療の研修に携わる。2005年《赤坂アンチエイジングクリニック》開院。獨協医科大学名誉教授、NPO法人《日本アンチエイジング・メディカルスバ協会》副会長なども務める。問い合わせは、<http://www.a3-clinic.com>

本格的に研究するようになったのは今年に入ってからです。「電子スピン共鳴装置」(ESR) を使ってその抗酸化作用を調べたところ、驚くべきことがわかりました。

活性酸素(フリーラジカル)のなかで最も毒性が高いヒドロキシラジカルを発生させた500 mlの蒸留水に、「固体マイナス水素イオン」の粉末を0.4 mg溶かしただけで、ヒドロキシラジカルがほぼ完全に消去されてしまったからです。私の経験から言っても、ここまで強力な抗酸化物質はなかなか見当たらないというのが実感です。

またマイナス水素イオンは、細胞内のミトコンドリアという器官で、私たちの生命活動の源であるATP(アデノシン三リン酸)というエネルギーの産生にかかわっていると考えられています。「固体マイナス水素イオン」を利用した患者さんから、「疲れがたまらなくなった」「尿量が増え、体のむくみが減った」「おなかの脂肪がとれ、ダイエットできた」といった声が寄せられているのも、そのためでしょう。強力な抗酸化作用で細胞

の酸化が抑えられることに加え、エネルギー産生能力そのものが大幅に高まることで、体内のアンチエイジング若返りが実現するのです。

このほかにも、まだサンプルデータは多くありませんが、運動前に「固体マイナス水素イオン」を摂取すると、体内の疲労度を示す乳酸値の上昇が抑えられることが確認されています。

乳酸値が上昇しないということとは、激しい運動をしたあとでも体内の酸素が不足しない、つまり、体の末端まで血液がめぐり続けていることを意味します。今後、「固体マイナス水素イオン」の血流改善効果が確認できるようになれば、脳の血管障害や認知症、あるいはEDのような勃起障害の改善にも効力を発揮するかもしれません。

アンチエイジング若返りの基本は、予防の視点に立って、病気になる体質をつくるということです。活性酸素を強力に除去し、エネルギー産生を高めてくれるマイナス水素イオンは、心身の若さと健康を取り戻すうえで欠かせない存在と言えるでしょう。

## 細胞を元気にし、健康長寿を実現可能にする「マイナス水素イオン」の活性パワーで、40代の気力・体力が蘇った!

「固体マイナス水素イオン」のサプリメントは、食用のサンゴカルシウムに大量の水素原子を吸蔵させたもの。体内で水にふれると電子を2個もったマイナス水素イオン(H<sup>-</sup>)に変化し、通常の水素原子よりも強い還元力(体の酸化を防止する力)を発揮するようになります。

一般には、水素は水に溶けると電子を失って、プラスの電荷をもったイオン(H<sup>+</sup>)になるとされているため、お医者さんに尋ねたら、おそらく99%が「そんなものは存在するわけがない!」と言ってしまう。しかし、実際に「固体マイナス水素イオン」のサプリメントを摂取すると、エネルギー代謝が短時間で高まり、体中の細胞が生き生きと蘇生しはじめます。私自身、初めて「固体マイナス水素イオン」のサプリメントを摂取したとき、疲れた体が再生していく

ような爽快感をおぼえました。血液画像分析装置で血液を調べたところ、ドロドロにくっついてきた赤血球がほどけ、勢いよく動いているさまがハッキリと確認できたのです。

「これが本当だったら、日本に健康革命が起こってしまう!」……そのように直観し、マイナス水素イオンに関する研究に没頭しはじめて、約5年。以来、1日の睡眠時間は4時間で問題なし。70歳を前にして気力・体力は衰えず、つねに40代の若さを自覚しています。「健康を維持する」ということは、「病気になるらない体内環境をつくる」ということ。マイナス水素イオンのすさまじいまでの活性力によって、125歳の健康長寿も実現可能ではないかと思っ

ています。

(株)水素研究所 若山利文

# 酸化し、疲弊した体を すみやかに蘇生させる

## 驚異の「マイナス水素イオン」効果

佐野厚生総合病院内科医長 内藤真礼生

エネルギー産生を  
飛躍的に高め  
活性酸素を水に変える！

私たちは、毎日の食事から摂取した栄養素を血液によって体中の細胞に運び、ミトコンドリアという器官でエネルギーに代えて生命を養っています。

ミトコンドリアは、細胞内のいわばエンジンのような器官。胃や腸で消化・吸収された栄養素は、日々、ここでATP（アデノシン三リン酸）というエネルギーに変換され、私たちの活動の源となっているのです。

このエネルギー産生の現場で

非常に重要な役割を果たしているのが、マイナス水素イオン。ミトコンドリア内の酵素反応と呼吸から取り入れられた酸素により、食物の栄養素に含まれる水素が取り出されます。すべてのメカニズムが解明されたわけではありませんが、水素の一部はマイナスイオン化し、ニコチン酸アミド（NAD）と共役して電子を供給することで、エネルギー産生をうながしていると考えられるのです。

したがって、もし外からマイナス水素イオンが補給できれば、エネルギー産生のサイクルがさらに加速することが想定で

きます。マイナス水素イオン配合のサプリメントを摂取することで、「疲れにくくなった」「気が充実し、いつも元気である」という声が多いのもそのためでしょう。運動選手においては、最大運動能力が向上することも確認されています。

また、エネルギー産生の際に使用された酸素のうち、約1〜2%が毒性のある活性酸素に変化すると言われます。マイナス水素イオンには、これらの活性酸素と結びつき、無害な水として体外に排出する働きもあります。水素原子は、一般の酸化物質の数百分の一という小ささ

で、体内のどこにでも容易に作用し得る、最強の酸化物質。マイナス水素イオンのサプリメント（固体マイナス水素イオン）は、老化や病気の原因として知られる活性酸素を効果的に除去する酸化物質としても、注目に値するものなのです。

患者さんの体験から実感した  
「水素は宇宙からの贈り物」

私自身、「固体マイナス水素イオン」を摂取された患者さんの変化を、実際に自分の目で確認するまでは、ここまで優れた効果があるとは思っていません

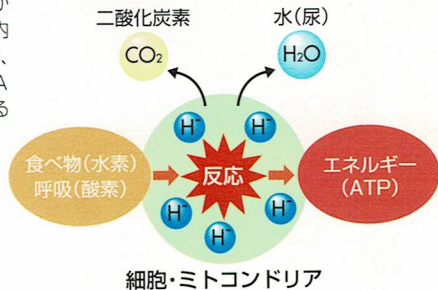




内藤真礼生●ないとうまれお  
1985（昭和60）年、慶応義塾大学医学部卒業。医師・医学博士。オーストラリア・メルボルン大学医学部研究主任を経て、現在は栃木県・佐野厚生総合病院内科医長を務める。専門は内科全般、高血圧・腎臓・透析。漢方の専門外来も開設し、統合医療の研究にも取り組んでいる。

### “細胞内のエンジン”ミトコンドリアとマイナス水素イオンの関係

食べ物に含まれる水素（H）と呼吸から取り込まれる酸素（O）が、細胞内のミトコンドリアで反応することで、マイナス水素イオン（H<sup>-</sup>）が発生。ATPのエネルギー産生がうながされると考えられます。



初めての症例は、2006年10月のこと。末期のC型肝硬変で多量の腹水が貯まり、アンモニアで意識も悪くなり、さらに腎障害も併発し、「余命2週間」と診断された82歳の女性が、1日4粒（約1g）摂取開始したところ、10日後には、腎機能の指標であるクレアチニンの血中濃度が正常値にまで下降。ベッドに座って食事ができるまでに元気になりました。

そして1か月半後には、多量の腹水が完全になくなり、肝機能の指標であるGOTやGPT値も正常範囲まで改善。2007年4月初旬には退院され、病院や日常生活が可能なまでに症状を回復されています。

長年の臨床経験から見ても、このような末期肝硬変の劇的な改善例は考えられないことです。肝臓はあらゆる栄養素の分解・合成反応が起こっている人体最大の生化学工場で、マイナス水素イオンによるエネルギー産生がその機能維持にとても重要な役割を果たしていると考えられます。現在のところ、C型肝炎ウイルスの駆除やC型肝炎

変への進展抑制・肝がん防止には、インターフェロン療法が唯一認められた有効な治療ですが、マイナス水素イオンの活用・併用が大きな補助になる可能性は十分あると思われま

このほかにも喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、肥満や高脂血症などのメタボリックシンドローム、そして、がんなどに対する補助療法としての有効例が少なくありません。

同じく重度のC型肝炎で、インターフェロンが無効だったある患者さんが、「固体マイナス水素イオン」を摂られることで大幅に状態が改善されました。その患者さんから「マイナス水素イオンは『宇宙からの贈り物』です」と書かれた手紙をいただきましたが、私自身もそれに近い実感をもっています。

医師の研究発表も重ねていきたいと思ひ、今年、中間法人「水素と医療研究会」を設立し活動を始めました。これからも難病に苦しむ患者さんたちと向き合いながら、マイナス水素イオンのもつさまざまな可能性を追求していけたらと思っています。

**体内で「マイナス水素イオン」になって大活躍する水素は、生命活動の『主役』を担う重要な存在なのです。**

最近では、酸素の健康効果がメディアでさかんに取り上げられています。しかし、人間の生命活動について研究を進めていくと、「生命活動の主役となるのは水素であって、酸素は脇役にすぎないのではないか？」という思いが強くなっていきます。

水素は、この宇宙で最も小さく、そして最も数が多い元素であり、137億年前に始まったというビッグバンのあと、最初に作られた物質だったと言われています。

私たちの生命を育む太陽も水素の塊であり、水素どうしの核融合によって地球にエネルギーを供給しています。その地球にも、大気中に酸素が生じる以前から水素は存在していました。もちろん人間も、人体を構成する元素の63%以上が水素という、水素の塊にほかなりません。これまで水素と言えば「酸素と結合して水になる」と言っていた程度の認識しかなかったかもしれませんが、実はもっと深いところで、私たちの生命活動とかわり合っている。そのことが近年の研究のなかで徐々に明らかになってきています。

具体的に言えば、食物に含まれていた水素は、細胞内のミトコンドリアで酸素と反応して、ATPというエネルギーを生み出します。そのエネルギー産生の際に大量のマイナス水素イオンが発生し、細胞内にたまった活性酸素を水に変えてくれるのだと考えられます。日ごろから水素がたっぷりと補給できていれば、生命は元気に活動します。そこに、「マイナス水素イオン」の超健康パワーの秘密が隠されているのです。

(株)水素研究所長・若山利文



# 病気にならない社会作りの 実現に向けて

いま日本は、年間31兆円という膨大な医療費により、財政破綻寸前という未曾有の危機を迎えています。薬に依存し、いたずらに医療保険の負担を強いる現行のシステムでは、もはや国民の健康と幸せを守るのは難しいのが現状です。

人は加齢とともに体内の抗酸化物質SOD(スーパー・オキシサイト・デヒスムターゼ)の働きが低下し、活性酸素の過剰な働きに対する抵抗力が徐々に失われていきます。ただでさえ心身の消耗がうながされる現代社会に生きている以上、実績と信頼性のある何らかの健康ケアを施さないかぎり、中高年の生活習慣病、ガン、うつ、更年期障害などの精神疾患はこの先ますます増大していくでしょう。一人一人が健康の

大切さ、ありがたさを自覚し、「体にとって何が必要で、何が不要なのか?」、健康について前向きな気持ちで学んでいく必要があると言えるのです。

「固体マイナス水素イオン」は、疲弊した日本社会を救う切り札となる、画期的な食品です。現在、医療現場でもマイナス水素イオンの作用機序に注目する医師が増えてきています。また、心身の若返り、気力の充実にも効果は絶大です。体中の細胞が、文字通り、健康的なみずみずしい状態に生まれ変わるでしょう。

あなたがどんなにすばらしい医師と巡り会い、優れた診断・治療が受けられたとしても、病気になるってしまったからでは遅すぎなのです。病気になる前の予防策、健康の維持・増進の環境として、この「固体マイナス

水素イオン」をぜひご活用ください。

日本再生につながる道は、根本にある私たち一人一人の健康レベルの向上なしに語ることはできません。マイナス水素イオンの普及は、病気にならない、生き生きとした社会作りに不可欠なものなのです。

私たちは、「水素」を通じての社会貢献を柱として、これからも研究・普及・啓蒙活動に邁進していく所存です。マイナス水素イオンの健康パワーで生命力を大いに高め、ともに喜びと希望に満ちた、楽しい人生を送りましょう!

2007年9月

(株)水素研究所長 若山利文



若山利文 ● わかやま としふみ  
フランス大使館・商務部勤務を経て、15の会社設立・経営に関与。現在(株)水素研究所所長として、水素の健康効果について著述、講演活動を展開中。

